

翔陽高等学校 令和2年度(2020年度)学校評価計画表

1 学校教育目標						
心豊かで活力にあふれた個性ある生徒を育成し、将来、世界で活躍できるグローバルな視点と能力を持つ、故郷熊本を支える地域人材の育成を目指す。						
2 本年度の重点目標						
(1) 総合学科だからできる幅の広い教育活動をとおして、グローバルな視点と能力を身につけた、地域に貢献できる人材を育成する。						
(2) 進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。						
(3) 全ての教育活動をとおして規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。						
(4) 人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にする生徒を育成する。						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○総合学科における新学習指導要領への対応	○授業研究プロジェクトチームを発足し、新学習指導要領及び新しい入試制度に対応した教育内容についての検討 ○生徒授業評価によるPDCAサイクルの確立	B	○コロナ禍による新しい生活様式への対応のための授業の検討を行った。今後はタブレットの活用についての検討を行う必要がある。 ○授業評価を実施しどう改善していくかまで各自行った。改善策が抽象的で具体的な所までできていない。
		総合学科のPR	○定期的な情報の発信	○HPの随時更新 ○パンフレットや広報誌の活用	A	○ツイッターやYouTubeのSNS等の活用も開始できた。 ○学校案内を発行し各方面に配付できた。
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○外部講師による講演会の実施 ○先進地視察研修の実施 ○進路体験発表、キャリアガイダンスへの積極的な参加 ○各年次での保護者向け啓発活動の実施	B	○オンラインでの講話などに向けた機材の設置が必要である。 ○先進地視察は中止も多く参加できなかった。 ○進路指導部や、各教科で、実施できた。 ○コロナ禍において、YouTube等を活用し説明会を進路指導部で実施した。
			○進路選択に合わせた適切な科目選択	○授業見学等をとおして科目におけるガイダンスの充実	B	○3年次のオープン科目の見学会を1年次に対して実施した。更に分かりやすいガイダンスの検討が必要である。
		キャリア教育のシステム化	○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化	○体験型学習の充実 ○自らの進路選択との関係性を明確にした班別プロジェクトの実施	A	○教材『エナジード』を導入し、グループ学習を中心に自分の生き方について考えさせた。 ○今年から個人での活動とし、職業について一人一人に考えさせた。
			○インターシップの活性化	○企業開拓及び全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアファイル」の有効活用	B	○探究活動の一環として全職員で実施した。 ○本人の進路希望と違う職種の実業所で研修する生徒も多かったが、それぞれ目的を持って研修できた。

			<ul style="list-style-type: none"> ○デュアルシステム、総合的な探究の時間の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ○全系列でデュアルシステムを継続 ○まとめとしてキャリア教育発表会（総合学科発表会）の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○将来に夢に結びつけた深い学びができた。 ○各系列代表の発表（体育館で動画動画）と各自の展示（講義室や実習室）に分け実施した。内容の充実が課題。
開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施		<ul style="list-style-type: none"> ○学校の取組や学校の最新情報の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報・ホームページ委員会、総務部を中心に各部・各学科・各年次の連携を深め、学校での最新情報を計画的に発信 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、より効果的に学校情報を発信するためにTwitterやYouTubeを開設することができた。動画等による学校の情報等を発信することができた。また、コロナ禍で学校行事に来校できなかった保護者向けにYouTube等を使って情報を発信することができた。
			<ul style="list-style-type: none"> ○地域企業へ本校教育活動の発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○菊池地域企業推進プロジェクト、地域企業との情報交換会、地域工場見学会等の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○大津町企業ガイダンス（14社） ○県北地域企業オンラインガイダンスHP（47社） ○大津町企業見学（3月予定）
働き方改革	セルフマネジメントの育成		<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務時間45時間以内 ○年休取得12日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時退勤日、一斉休業日の設定 ○仕事の棚おろし表作成 ○時間外業務管理 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的方策について実施し、1月末現在の時間外勤務時間は全職員平均で39.5時間であった。 ○組織の見直し、主任による仕事の棚卸表を活用した業務の効率的な進行管理、職員の意識の変容が次年度に向けた解決すべき課題となる。
			<ul style="list-style-type: none"> ○教科横断的な視点に立った授業の推進 ○ICT機器を効果的に用いた授業、オンライン授業の研究 ○指導と評価の一体化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究プロジェクトチームによる職員研修の充実 ○外部講師の招聘、校内研修の実施 ○効果的な評価の在り方（ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等）の研究 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のために、約2ヶ月の臨時休業となったため、Formsを用いた課題内容の連絡や確認テストの実施、Zoomや動画配信を用いたオンライン授業の実践など、従来の形とは全く異なる授業方法の研究・実践を迫られた。個人差はあるものの、オンライン授業に取り組むとても良い機会になった。 ○一人一台タブレットが導入されるため、効果的な活用方法等について職員研修を実施していく。 ○授業研究プロジェクトチームによるモデル授業の実践や職員研修の充実が図れなかったため、次年度取り組む。 ○教育課程研究プロジェクトチームを中心に、観点別評価の研究に着手した。次年度試行、令和4年度実施の予定である。
学力向上	学力の向上	主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実現に向けた授業研究	<ul style="list-style-type: none"> ○公開授業校内参観率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修立案 ○対外的行事に合わせた授業参観の企画 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内における公開授業参観を年度当初は2回実施する予定だったが、コロナ禍によって大幅に行事予定が変更になったため、実施は1回となっ

			<ul style="list-style-type: none"> ○外部からの授業参加者数の増加 			<ul style="list-style-type: none"> た。公開授業週間における職員の参観率は昨年度並みであった。次年度は、年度初めの職員研修で少人数のグループを編成し、年間をとおしてグループメンバー間での相互授業参観・授業研究を実施したい。 ○各教科の研究授業の実施は概ね達成できた。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部への授業参観の案内を企画することができず、学校外からの授業参加者数の増加は達成できなかった。
		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習1時間+α ○学習のPDCAサイクルづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習時間調査の実施、結果分析、改善策の提案・実行 ○『教務通信』による学習アドバイス ○スコラ手帳の効果的活用法の提示 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度はスコラ手帳を活用して、学習計画の立案・結果を記録した。調査も紙媒体ではなく、Formsによる回答形式で実施したため、結果データの集約をスムーズに行うことができた。 ○第1回目の調査では、昨年度の平均学習時間を大きく上回り、139.1分（昨年度平均96.5分）であった。第2回目の結果では、例年と同様に、学習時間が減少していたため、家庭学習の定着を図るための手立てを講じる必要がある。ただし、学習の量に着目するのではなく、学習の質・主体的に家庭学習に取り組んでいるかを調査し、生徒へフィードバックする必要がある。 ○『教務通信』の発行も、長期休業前後に発行することができた。
進路指導	進路保障	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ○就職目標 進路目標の100%達成 県内就職率85%以上 公務員合格率65%以上 ○進学目標 国公立大学合格3人以上（高専含む） ○故郷熊本を支える地方創生への積極的推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員面接2回実施 ○専門系列と2・3年次との進路会議 ○模擬面接の充実 ○作文・小論文指導の充実 ○進学係・公務員担当による面談の充実 ○関係諸機関（大津町役場、県北本部）との連携 ○3年次の職員と進路指導主事との定例会を開催し、目標を共有化 ○個性を活かした大学推薦入試への挑戦 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○就職目標は、100%達成。 県内就職率 91% （菊池所管内就職率51%） 公務員合格率78% ○進学目標は、100%達成 ・国公立大学2名（希望者2名） ○関係諸機関との連携 大津町企業連絡協議会（役場） 県北地域広域本部（オンライン）

			○高い目標へ挑戦及び個性を生かした推薦入試への挑戦			
		早期離職・上級学校退学の防止	○適応指導の充実 ○進学就職内定者指導の実施	○熊本しごとコーディネーターとの面談でミスマッチの無い受験 ○生徒の目線にたった離職・退学防止のための年次と連携したLHR指導	A	○熊本しごとコーディネーターと3年次、2年次生との面談が実施できた。
		熊本県・県北本部、地元2市2町、大津町、大津町企業連絡協議会との連携、上級学校との連携	○地方自治体の地方創生へのプランニング、積極的協力参加・協力 ○保護者の進路意識の向上	○オープンキャンパスへの参加 ○上級学校訪問等の充実 ○効果的・継続的な地方創生を目指し、地方自治体と連携 ○保護者の理解を深めるため、年次保護者会等を実施	A	○大津町企業ガイダンス 6月26日(金)⑤⑥ 14社参加 ○県北地域企業オンラインガイダンス 1月22日(金)⑤⑥ 参加47社のうち6社動画視聴 ○2年次保護者進路学習会 新型コロナ感染拡大の影響で動画配信予定。
		基礎学力の向上	○教務部との連携(目標を設定した効率的な学習) ○図書部との連携	○進路指導部から、全校集会等において読書の意義等について説明	C	○コロナ禍により、全校集会などでの説明ができなかった。教務部、総研部、図書部との連携や各年次との連携方法について再検討が必要。
生徒指導	生活指導	基本的な生活習慣の確立	○整容指導の徹底 ○始業時間の厳守 ○挨拶の徹底 ○規範意識の向上 ○特別指導数10件以下 ○無断アルバイトの根絶 ○盗難件数0 ○二重ロック率100%	○教職員の共通理解での連携と生徒・保護者への周知徹底 ○年7回の容儀検査の実施 ○年3回の生活指導日の実施 ○段階的指導の推進 ○登校指導・巡回指導 ○全校集会での啓発、担任指導の充実、保護者への連絡・啓発 ○交通委員会による啓発と点検 ○年間をとおしての朝の登校指導	B	○翔陽メールや生徒部通信を活用。 ○容儀検査の実施により身だしなみの乱れの減少。 ○段階的指導により問題行動の減少。 ○今年度は全校集会が実施できなかったため、生徒部通信等を活用して発信を行った。 ○交通委員会による定期的な二重ロックの検査により施錠率が90%以上をキープ出来た。
		交通安全教育の充実	○交通安全に対する意識の向上 ○重大事故件数0	○交通安全講話・通学方法別集会の実施 ○単車通学生への実技講習及び安全指導(年3回) ○自転車通学生への安全指導 ○危険予知能力を向上させるためのLHRの実施	A	○日頃から交通安全の啓発により、重大事故の発生が0件だったが、転倒や接触事故等が春先に目立って発生した。 ○DJポリス等、大津警察署と連携し交通安全の呼びかけを行った。

						<ul style="list-style-type: none"> ○スタントマンによる実践の交通講話を実施し交通事故の恐ろしさを知ることが出来た。 ○こまめに集会を行い安全運転の啓発を行った。
		自主自立を養う生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の活性化 ○さまざまな活動への意欲的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒総会の充実 ○体育大会・文化祭等の学校行事の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で完全実施は出来なかったが、現状に応じて全ての生徒会活動を実施することができた。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的なボランティアへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○豪雨災害、リモート、ボランティア委員会主催等でコロナ禍にもかかわらず例年同様多くの参加があった。 ○レオクラブ発足や委員会の組織化により、ボランティア委員の自覚と意欲が高まった。
	部活動の推進	心身の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動加入の推奨 ○自尊感情の育成 ○奉仕精神の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動見学会の実施等により、加入率80% ○キャリア教育との連携 ○部活動実績のHPでの紹介 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動紹介等、例年どおり実施出来なかったが高い加入率が維持できた。 ○キャリア教育と連携して基本的な生活習慣やあいさつの模範となった。 ○学校HPを活用して部活動の活動を発信することができた。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題についての正しい理解と認識を深める。 ○身の回りにある不条理な差別を見抜き、正しく行動できる力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な職員研修の実施と校外研修への積極的な参加 ○生徒人権集会、人権教育LHR、人権教育講演会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスの影響で校外研修はほとんど中止になった。担当者からオンライン研修の復講を実施。 ○生徒人権集会も新型コロナウイルスの影響のため放送で実施した。人権教育LHRは計画どおりほぼ実施した。
	教育相談	教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの生徒のニーズに応じた支援体制の確立と強化 ○悩み相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員同士の情報共有体制の強化 ○保護者、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○個別の教育支援計画・指導計画の策定 ○通級指導の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解研修を2回実施した。 ○年間22回、スクールカウンセラーによる面談を実施した。保護者との面談も実施した。 ○個別の教育支援計画・指導計画を作成し、ケース会議を実施した。 ○教材の準備、対象生徒の決定、体験授業の実施、大津支援学校のスーパーコーディネーターからの指導助言など、4月からの本格実施に向けて取組を行った。
	命を大切にす心を育む指導	自他を尊重する心と社会規範を遵守する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○生徒の自発的・自立的な道徳的行為の涵養への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にす観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○命を大切にす授業を人権教育LHR等で実施した。

いじめの防止等	安心安全な学校生活	いじめを生まない環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策へ向けた組織対策の確立 ○重大対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめ未然防止と早期発見 ○SNS被害防止への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止対策委員会（3回）・小委員会（4回）の開催 ○家庭訪問及び定期的な個人面談の実施 ○いじめ実態把握調査の実施（6月、11月にアンケート実施） ○スクールカウンセラーによる教育相談の活性化 ○外部専門家からの指導助言 ○生徒会、委員会による啓発活動 ○スクールサインを利用した早期発見 ○SNS被害防止のための講演会や全校集会での啓発 ○保護者集会での啓発 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回のアンケートの実施や、生徒からのSOSの発信により、今年度は10件のいじめ認知があった。その都度に各委員会を開き、それぞれの部署と対応を検討し、解決の方向に向かうことができた。 ○心のアンケート結果を踏まえ、担任等が必要と判断した生徒についてスクール・カウンセラーの面談を実施した。 ○いじめ防止等対策委員会は大津警察署、スクール・カウンセラーが出席。指導助言を対策にいかした。
保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の充実 ○感染症対策の実施 ○健康教育の充実 ○よりよい生活習慣の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の結果を基に体調不良者の早期発見・対応 ○全職員による感染症の予防的対応 ○個別面談の実施 ○生徒保健委員会活動の活性化 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康観察表の提出がスムーズになり早めの対応ができた。より詳しい内容が把握できるような工夫が必要。 ○換気、消毒等十分な取り組みができた。 ○面談は実施できたが感染症防止の点から十分な時間はとれなかった。 ○活動時間が長めになることもあったが翔陽祭のステージ部門で大賞、県の保健だよりコンクールで最優秀賞を受賞できた。
教育環境整備	安全管理	救急救命研修および感染症対策の実施 施設設備の安全管理 ハザードマップの作成	<ul style="list-style-type: none"> ○救急救命蘇生法研修会および感染症対策の計画と実施 ○危険箇所への確実な対応 ○安全点検の確実な実施 ○安全点検の徹底 ○普段からの事故防止 ○発生したときの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○蘇生法の実際と緊急時のフローチャートの確認および感染症対策の周知 ○生徒指導部・保健部と事務部が連携して対応 ○「安全点検週間」を設け実施率の向上を目指す ○点検結果をまとめ、回覧し、必要に応じ全職員へ周知 ○安全点検の充実及び防災避難訓練の徹底校内の避難経路の作成登下校時の指定避難場所の周知 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修会の実施ができなかったため動画視聴のURL周知を行った。 ○コロナ禍において、感染対策情報を適切に周知することができた。 ○生徒指導部と事務部の連携はできたが、保健部との連携が課題 ○生徒美化委員による安全点検の実施 ○定期的に安全点検の実施（年3回） ○コロナ禍の中で訓練自体は縮小して行わざるをえなかった。（消防署の講評や消火訓練の中止） ○集合・点呼のあり方に改善の余地があることがわかった。

	学校版 環境IS 0の推 進	環境美化の 徹底と環境 問題への意 識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○5S活動の 充実 ○節電・節水 (省エネ推 進) 3~1 0%の削減 ○ゴミの減量 化 可燃ゴ ミ重量昨年 比、5%減 少 	<ul style="list-style-type: none"> ○整理・整頓・清掃・清潔 ・躰 ○ゴミ分別の徹底 ○ゴミ持ち帰り活動 ○環境美化コンクールの実 施 ○「節電・節水」の掲示物 等の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の掃除の徹底により環境が改善 できたところが増加 ○生徒美化委員によるゴミの分別の指 導の徹底 ○美化コンクールは実施できなかつた が、ボランティア委員会と連携し地 域の清掃活動を実施(2月初旬) ○掲示物の張り替えと補強の実施
地域連携 (コミュニ ティ・ス クールな ど)	学校行 事を通 じた連 携	学校行事等 の開放と交 流	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会との 連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一役活動(翔陽祭、 長距離走大会、登校指 導、校外補導等) ○学校支援、海外学習の支 援 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍でも活動としてできること を考え、タオルやお菓子配布など育 友会として活動することができた。 ○感染症流行により支援活動等が中止 となった。
			<ul style="list-style-type: none"> ○同窓会との 連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援、登校指導、後 輩への激励 ○海外学習の支援 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○会長交代があり新体制となった。 ○海外学習が行われず支援は中止とな った。
			<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民と の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○翔陽祭での物品販売 ○地域花壇の管理 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○翔陽祭が実施されず物品販売を職員 向けに行った。 ○学校正門前通りの花壇を例年どおり 管理できた。
			<ul style="list-style-type: none"> ○近隣の小学 校・大津支 援学校との 交流及び共 同学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○農作業体験学習 ○共同学習 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○室小学校2年生との交流学习で、大 根や白菜の種まきや収穫を行い、小 学生からもお礼の手紙をもらった。
	保護者 との連 携	学校理解の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会総会 等の出席率 向上 ○保護者への 連絡の徹底 ○保護者との 情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会、公開授業週 間を活用した学校教育活 動の理解促進 ○学校あんしんメールの活 用 ○PTA会報の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会は書面決議となり、授業 参観や保護者同士のクラス交流等が できなかった。 ○感染症対策や緊急連絡事項等、メー ル活用は重要な連絡手段となっている。 ○PTA会報は例年どおり年3回発行 できた。
	地域と の連携	防災体制の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携 した施策の 実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域関係機関や役場との定 期的な意見交換 ○地域と連携した教育活動の 評価と点検 ○避難所運営協定に基づく「 覚書書」の締結 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○大津町の防災担当者、大津高校、大 津支援学校と連携をとり、避難所運 営協定に基づく「覚書」を締結する ことができた。 ○室北区の防災避難訓練に参加する ことができ、コロナ禍においても地域 住民との連携を維持することができ た。

4 学校関係者評価

※「教育懇話会」委員の評価を記載

- ・生徒指導の案件が少なかったようだが、これからも緩みなく指導してほしい。
- ・総合学科研究部の取組など、キャリア教育を身に染みこませる取組はよい。
- ・翔陽高校が行う企業説明会も有効。下手な話よりも理解に繋がる。
- ・保護者（親父の会等）が、子どもたちに働き方等を語る機会もいいのではないか。その感想文は保護者の励みになる。
- ・防災教育の分野では、企業として情報提供や協力することができるので活用してほしい。
- ・コロナ禍対応を教訓として、タブレットやスクール・カウンセラーの活用を継続してほしい。
- ・生徒指導件数やいじめ案件など少ないようだが、コロナ禍の影響が見極めと気づきを大切にしてほしい。
- ・部活動など、人を繋ぐのにとっても大切なので、できるだけ実施してほしい。
- ・このコロナ禍の状況の中で、よくやっていると感じる。
- ・生徒の環境の変化もあると思うので、できる限りの配慮を。
- ・学校の取組は先を見据えたものとなっている。
- ・保護者への情報発信の工夫も必要ではないか。今活用しているものに加え、大津町の情報番組も活用してほしい。（大津町よかとこチャンネル：YouTube とラジオ）
- ・大津町企業ガイダンスや企業見学会の実施で理解を深めてほしい。
- ・学校として、しっかり対応しているように感じる。
- ・インターネットやSNSの広がりや、子どもたちの環境も急速に変化しているので、その対応が大変ではないか。
- ・生徒と保護者の関係が心配な部分もあると聞く。保護者への情報発信も大切であり、理解へと繋がるのではないか。
- ・大津町と学校、学校と企業連絡協議会との関係も大切にしてほしい。
- ・地元企業への就職が多いのは心強い。
- ・デュアルシステムなどのキャリア教育の取組はとてもよい。
- ・信号のない横断歩道での渡り方が度々耳に入ってくる。止まってくれる車も多いので、感謝の気持ちも忘れないでほしい。
- ・犯罪者にはならない教育をお願いしたい。
- ・情報社会が進むことで、家庭教育の大切さが大きくなっている。
- ・これからも警察と学校との連携を大切に青少年育成にあたりたい。
- ・朝から登校する翔陽生を見かけるが、よく挨拶をしてくれる。
- ・ボランティア活動にも積極的に、中学生もよく見ていて憧れている。
- ・「翔陽ブランド」を大切にしてほしい。
- ・コロナ禍の中、インターンシップなど協力ができていない面があった。来年度も可能な限り受け入れる方向ですすめたい。保育園児も、高校生の年代とふれあう機会がないので、大切な機会としていきたい。
- ・翔陽高校の卒業生で短大卒の生徒を今年採用した。保育士が不足している中、保育士を希望する生徒の夢の実現に協力したい。今後も、保育士を目指す子どもたちの希望達成に向けてがんばってほしい。
- ・同窓会として、翔陽高校に学校名を変更してから25年経つが、地域や保護者からの評判もよく人気もある。総合学科として上手くいっていると感じる。
- ・コロナ禍で大変な舵取りではなかったかと思うが、前向きな取組が見て取れる。
- ・先生方の仕事と家庭が両立できるシステム作りに力を入れてほしい。
- ・いじめ問題への対応もしっかりと行っているが、保護者も含めて取り組める内容も今後検討していきたい。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標：目標の下「自ら気づき、考え、行動する」をスローガンとして、各学年等、具現化に向け「くまもと教育の日」の講演等、あらゆる場面において年度当初より生徒へ投げかけを行ってきた。その成果は、進路実現、地域からの評価等で成果が見られるようになってきている。
- (2) 重点目標：新学習指導要領を念頭に置いて、授業改善プロジェクトチームを発足し、「カリキュラム・マネジメント全体計画」、「授業づくりの指針」を作成し、教職員自らが授業を振り返るPDCAサイクルを意識したシステムの構築ができた。
- (3) 自己評価総括表：生徒においては、昨年度と比較して、8項目で評価が下がり、7項目で評価が上がりましたが、平均値は昨年度と変わらず「3.0」となりました。保健室の利用に関する項目、進路目標に関

する項目、自分は大切にされていると感じる項目、ボランティアに関する項目の評価が下がり、制服の着こなしに関する項目、情報機器を中心とした施設整備に関する項目は昨年度より高いものとなりました。学校生活、授業に関する項目で評価は高いが、昨年度に続き、家庭学習に関する項目に課題があります。家庭学習の習慣化を目指し宿題・課題などの取組を継続していく必要があります。また、「困ったときに先生方が親身になって相談乗ってくれる」「あなたの考えや意見を聞く機会を設けている」の項目が下がっています。以上のことを真摯に受け止め、生徒指導の指針になるように、自己決定を促す場を作りながら改善に取り組んでいきます。

また、保護者においては、昨年度と比較して、平均値は「3.0」と同じでした。しかし、コロナ禍の影響もあり、育友会活動への積極的に参加できなかったことや施設設備への満足度、進路実現に向けての取組に関する項目等が低い結果となりました。新型コロナウイルス感染症防止のための学校の取組は理解していただいているものの、学校も対応に苦慮し、情報発信の面で不十分だという結果となりました。このことは、全職員で共有し、改善に向けての取組をしていきます。しかし、「本校には他校に比べ特徴がある」「子どもを入学させて良かった」という項目では、昨年度に続き、実践的な学習、授業改善の取組に関しても高い評価を頂きましたので、今後も教育目標や育てたい生徒像をしっかりと示し、単位制総合学科としての特徴を最大限に発揮できるように取り組んでいきます。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 式典は今後も3密を避けるため、工夫しながら実施したい。4月早々の育友会総会の実施が困難であれば書面決議となるが、Forms等インターネットを活用した集計を検討したい。活動への参加状況を把握するため参加率統計を取りたい。防災避難訓練での集合隊形の検討など、新年度早々対応したい。
- (2) 本校の特色ある教育課程編成のために、今までの踏襲ではなく、新学習指導要領に則り、個別最適化の学びの充実を図っていききたい。(科目選択の自由度を上げる、学外における学習活動に対する単位認定する、等)カリキュラム・マネジメント全体計画とリンクした『生徒授業評価』にするためにも、内容の見直し・検討を行う必要がある。
- (3) キャリア教育発表会として3年間を見とおせるものができたのが大きな成果であった。3年間のキャリア教育の流れの中で、3年次がデュアル・システムのみで全体のものになっていない。「総合的な探究の時間」を充実させなければ、3年間の一貫したキャリア教育にならないので「総合的な探究の時間」をどのように行っていくか検討していききたい。総合学科の特徴の1つである「科目選択」について選択肢をどれだけ与えるのか、そのためどのようなガイダンスをするかを早期に教務部とともに検討していききたい。来年から中学生体験入学もキャリア教育の中に取り込み実施できないか模索中。「総研部通信」を発行できなかったため、次年度では必ず実現したい。
- (4) 今年度は、段階的指導で朝掃除の廃止を行ったが、指導票の枚数が増加することはなかった。次年度の指導票は、前期に段階的な取組とし、後期で廃止を検討したい。
- (5) コロナ禍の対応として「リモート」「オンライン」等の環境を整え、生徒への指導のあり方も考えなければならない。大津町企業や県北地域企業との連携は、是非継続し、ガイダンスも「オンライン」等も考慮して、生徒に伝えていききたい。進学では、1年次から国公立大学への挑戦や高専への編入等も視野に入れて指導をしていききたい。「基礎学力」の在り方を「進路指導部」としての柱を出していききたい。進路と年次、系列での進路検討会(進学)を年に数回行いたい。特に3年生に向けて早めに計画したい。
- (6) 身体計測や視力などについては(特に3年次)早い時期に済ませておきたい。タブレットを使用しての健康観察を実施したい。
- (7) 専門科目関係図書の実質。(各科からの要望が多いため継続)・職員への情報発信の実質。IPessenger等を利用した、さらに細かい教科関連情報の提供の検討。図書資料とパソコンを併用した調べ学習に対応できるような環境整備。Wi-Fi環境の確認、関連図書資料の購入など。「朝読書コンクール」の改善。図書館終礼(朝のSHR)の実施を増やす。
- (8) SCについて、次年度、県からのSC配置時間が大幅に減少することになっている。今年度、相談件数が増加しているので育友会費からの補填等も含めて検討していく必要がある。特別支援教育について、春休みに実施している新入生相談会を来年度も実施したい。通級による指導について、4月から本格実施となるが、授業を実施する教室、教材などハード面でもまだまだ改善しなければならない事柄が多い。
- (9) インターンシップ、修学旅行に向けて、年次打合せの機会が多くなることが考えられるため、定例の年次会の議

題として、できるだけ組み込み、勤務時間を圧迫しないよう打合せ方法を検討する。進路指導部と連携を密に行い、希望進路別のガイダンス等を企画していく。また、筆記試験対策の教材も選定し対策を開始する。年次毎の進路対策学習を統一したい。3年次での履歴書や願書のチェック体制の質の向上。

(10) 3年次になっても、このリーダー会議を通して生徒の意識向上、責任ある行動、主体的な取り組みを実施して、より前向きな学校生活にできるようにしていきたい。インターンシップで得た経験をそれぞれの進路選択に生かし、自分が就きたい仕事、そのために必要な資格や個人のスキルを身につけられる3年次につなげていく。

(11) 年次団と系列(代表2名ほど)との情報交換会(授業態度、提出物の状況把握、進路についてなど)を学期に2回ほど実施する。進路手続業務の改善について検討。